



学校だより

# 園里っ子

須坂市立豊丘小学校  
平成28年11月24日  
文責：渋谷

## 体育館の清掃

縦割り清掃が始まり、体育館の清掃分担は2人です。女子1名が掃き掃除をして、男子1名が雑巾がけを行っていました。休むことなく、すごいスピードで雑巾がけをしている4年生の男子に、私は思わず声をかけました。「とても一生懸命にやっていて素晴らしい。けれど、すぐ折返して雑巾がけをしていたらかなり疲れるから、少し休んでもいいんだよ」すると、この男の子は「時間までに終わらせたいので……」と言いながら、ひたすら折り返して雑巾がけをしていました。体育館の東から西まで一直線に行くだけでも疲れるのに……。私は、掃除中に邪魔をしてはいけないと思いながらも、さらに聞いてみました「今日の雑巾がけは何処から何処までの範囲なの？」さすがに男の子は雑巾がけをストップして、私と目を合わせました。そこから思わぬ言葉が返ってきました。「毎日、体育館全部の雑巾がけをします。かなり忙しくて、昨日は全部終わりませんでした。昨日は昼休みに、掃除の直前まで体育館で遊んでいる人がいたので、直ぐに始められなかったからです。でも今日は絶対に終わります。」私はその答えに驚き、迷惑にも、さらに聞き返しました「どうして今日は絶対に終わると思うの？」すると彼はこう答えました「今日も掃除前に体育館で遊んでいる人がいたので、今日は掃除が始まる前にバケツに水を汲んで用意をしておきました。そして、その人達が去ったら直ぐに雑巾がけを始めたからです」私は心が震え、もう言葉が出ませんでした。男の子はまた忙しく雑巾がけを始めました。



## 参観日 思春期セミナーありがとうございました

11月9日の参観日は人権教育強調月間の期間中のため、人権教育をテーマに参観授業を行いました。学校評議員会の皆さんも参観していただきました。友だちのいいところを見つけたり、お話の場面で自分だったらどうするか話し合ったり、一生懸命に活動している姿に感心しておられました。寒い中、足を運んでくださった保護者の皆様、学校評議員の皆様、ありがとうございました。

授業参観に引き続き、東三校健全育成懇談会を行いました。東地区の役員の皆様、保護者の皆様、三校職員、計100名余りが集まり、子どもたちの健全育成にむけて懇談しました。今回は、思春期セミナーということで、日本家族計画協会理事長の北村邦夫先生をお迎えし、「思春期のころとからだ～大人はどう接したらよいか～」と題してご講演をいただきました。家族のコミュニケーションこそいちばん大事であることや子どもの特性をまるごと受けとめる大切さを学ばせていただきました。会場の皆さんが時間を忘れて聞き入ることができ、内容の濃いご講演となりました。



## 11月9日の校長講話

今日はディズニーランドのお話をします。ディズニーランドができた当時は、およそ10年間あれば採算は合うと言われていました。ところが、さらに長い間、とても人気のテーマパークです。1988年6月20日。ある1本の電話が東京ディズニーランドの事務所に入りました。

「ベッドに寝たままでディズニーランドに入園することはできますか？」そう尋ねる電話でした。この電話をしたのは、このままでは「数か月しか生きられない」とお医者さんから余命を宣告された12歳の「雅人」君という男の子のお母さんでした。雅人の病気は「脳腫瘍」。頭の中にある脳に悪い出来物ができるという病気です。ふつう脳腫瘍は、手術して取ってしまえばそれで治る病気です。だけど、雅人君の脳腫瘍は少し難しい部分にあったので、手術が上手くいくかどうか難しいとも思われていたのです。

ある日、雅人君は病室のベットでテレビを見ていました。そこに映っていたのはディズニーランド。雅人君はディズニーランドの華やかさに引かれました。ディズニーランドに行ってみたいなと思いました。体はうまく動きません。手術をして、もしも上手くいかなければ、体のどこかが動かなくなる後遺症が残る可能性もあるために、怖くて手術を受けたりませんでした。

そんな雅人君がある日、お母さんにこう打ち明けました「ディズニーランドに行くことができれば、手術をうけてもいい」。そこでお母さんは、ディズニーランドに電話をかけたのでした。

電話があった次の日、ディズニーランドの事務所でいつもの会議が開かれていました。その会議で、昨日、あるお母さんから電話があったということが報告されました。会議では、ベットに寝た状態の雅人君の入場を認めるか。賛成、反対の意見が2つに分かれました。反対の人は、受け入れれば、大勢がいる中、この子の安全上で問題がある。他のお客さんの安全にも問題がある。そして、もしも雅人君の容体が悪くなったらどうするんだ。同じように他にも入院中の方がディズニーランドに来たいとなれば、受け入れることになる。だから簡単には受け入れられない。というものでした。賛成の人は、息子の夢を叶えたいとの一心でお母さんは電話してきたのではないか。ディズニーランドは夢を叶える場所ではないか。……この一人の男の夢をかなえよう。そんな意見でした。どうしたらいいのだろうか。意見がぜんぜんまとまりません。そこで、まず、お母さんに事務所に来てもらって、皆で、お母さんのお話を聞いて考えることにしました。お母さんのお話を聞いた上で、次のような話にまとまりました。

私たちにとって、雅人君はディズニーランドへ来てくれる何万人に一人のお客さんだけれど、雅人君にとってはディズニーは、彼のかげがえのない一生に一度の夢の国だ。目の前の一人の男の子を幸せにできないでいて、多くの人を幸せにする夢の国が本当にできるのだろうか。それぞれの部署の責任者が皆で話し合っ、何ができるか。何ができないか。できないことを「できること」に変えるにはどうすればよいかということを出し合うということでした。命がけで来るゲストのために、できる限りのサービスをすることを誓いました。スタッフ全員が一丸となり、万全の態勢を取ることになりました。

そして、当日。初めてディズニーランドを訪れた男の子は眼をキラキラさせ、ミッキーに手を振り、本当に楽しそうでした。（中略）

病院に戻った雅人君は、「手術をしたい」と言い出しました。絶対に良くなっていつかまた、ディズニーランドに行きたい。そう言って手術を受けたそうです。

それから、4年後、ある新人のアルバイトが、キャストとしてディズニーランドに応募し、事務所を訪れました。その子は、あの日命がけでディズニーランドに来た雅人くんでした。

一人の問題を、皆で解決して乗り越えていくことができる学級は、温かな居心地の良い学級になるように、一人の少年の夢を叶えようとしたディズニーランドはその後、そのサービスを向上させて発展することができたんだと思います。一人の夢や希望を叶えるためとは、みんなの希望を叶えることと同じです。学級のあり方と同じだと思い、今日はこのお話を紹介しました。

出典：ディズニーサービスの神様が教えてくれたこと  
第4話 夢の架け橋